

◎ 昭和48年度役員会

と き：S48.4.18(水) 14:00~16:20

と ころ：札幌ホテル二階会議室

出 席：会長高橋敏五郎・副会長伊福部宗夫 幹事長河野文弘 幹事佐々木晴美 渡辺昇 青木弘 藤田嘉夫 顧問横道英雄 板倉忠三 北郷繁 以上のほか本会主事山本清助

高橋会長あいさつの後つぎの議事を行なった。

議 事

1. 本部の事業経過ならびに会計報告
2. 各研究委員会の事業経過ならびに会計報告
3. 土木学会支部に対する臨時分担金支出について
4. 会長・副会長の改選について
 - 高橋会長より辞任の要望あり、後任新会長に横道英雄（現顧問）氏が選任された。
 - 伊福部副会長より長期就任を理由として辞任の申出あり、これを了承され後任副会長に林正道氏（土木試験所長）が選任された。
 以上のことについては、会報で公表し総会決議に替えることになった。
5. その他
 - 1) 顧問の後任について：官学民の中から新会長に一任。
 - 2) 研究委員会の組織改廃について
 - (1) コンクリート研究委員会（委員長 横道英雄）：後日決定する。
 - (2) 鋼道路橋研究委員会（委員長 渡辺昇）：現状のままとする。
 - (3) くいきそ研究委員会（委員長 北郷繁）：土質基礎研究委員会と改める。
 以上は、つぎの役員会までに新委員名簿を作成することになった。
 - (4) 高橋会長の退任に対する記念品の贈呈について前例もあるので、幹事長に一任適宜選択する。
 - (5) 次回役員会の期日は、後日決定する。

◎ 新会長就任あいさつ



このたび高橋氏のあとをうけつぐことになった。この会のそもその前身は、敗戦直後に創立した北海道総合技術連盟で、それが北海道科学技術連盟となり、土木部門だけの現在の会となって今日に至ったのである。

この会の特長は、学会とはちがたいいわばかみしもをぬいだ集りとして、自由な調査討論を行ない必要によっては施工指針を制定したり、当局へ陳情したりしてきたことである。また、新技術・新工法の普及や見学会なども行なって、かなりの実績をあげてきたが、最近はずこし沈滞気味がないでもない。しかし、難しい規約を設けずに弾力的に運営できるのでこんご会員諸氏のご協力によって活動をさかんにしたいものと考えてる。

私は、最初からこの会に関係してきたが、これからもお役に立てればと願っている次第です。

(写真は新会長)

◎ 各研究委員会の最近の活動状況

I 鋼道路橋研究委員会（委員長 渡辺 昇）

1. 文献小委員会

（小委員長 渡辺 昇）

下記の文献を会員に配布した。

記

文献№26 ASCE (アメリカ土木学会) 論文集の文献日録
(Structural Division 構造部門) 自1956年～至1970年

2. 鋼橋写真編さん小委員会 (小委員長 木村 禎 吾)
47年度発刊した第二集の残務整理, (残金の支払, 寄贈先などへの発送) 第三集に対する準備は一切行
なっていない。
3. 講習・講演小委員会 (小委員長 小谷 実)
下記の映画会, 講演会を開催した。

記

- 1) 49.2.6 於自治会館 参加者 65名
「根室半島沖地震の調査報告」 北大 芳村 仁
「アルミ被覆鋼板について」 住友金属(株) 菅野 孝夫
「太径異形鉄筋スミバーD51について」 住友金属(株) 伊藤 義博
- 2) 49.2.8 於建設会館 参加者 58名
「長大橋の耐風性に及ぼすジャイロ・スコープの効果について」 川田工業(株) 三品 吉彦
「関門吊橋ケーブル工事記録～海と橋と人と(映画)」 川田工業(株) 三品 吉彦
「コンピューターによる橋梁設計製作のシステム化について」 川田工業(株) 北島 彰夫
- 3) 49.2.13 於厚生年金会館 参加者 175名
「鋼板の座屈と補剛材の効果について」 北大 渡辺 昇
「サンファーコ橋について」 日本鋼管(株) 上野 誠
「アラスカのケナイ橋について」 日本鋼管(株) 森 国夫
「COMシステムについて」 // 田中 征登
「湯屋谷橋について」 // 山田 友久
- 4) 49.4.5 於建設会館 参加者 75名
「北海道の鋼道路橋の歴史」 函館ドック(株) 佐々木 光朗
「ヨーロッパの橋梁」 道開発コンサル(株) 進藤 義郎
- 5) 49.1.21 於北海道溶接技術センター 参加者 40名
「施行管理者のための溶接技術講習会」
主催 : 溶接学会北海道支部
協賛 : 鋼道路橋研究委員会ほか4団体
内容は下記のとおり, なおテキストは全会員に配布した。
「溶接における高張力鋼材の熱処理～原理と実際」 北大 松原 嘉市
「応力条件による溶接継手の選定」 北大 柴田 拓二
「溶接欠陥とその対策」 北海道高等溶接学校 杉田 忠男
「溶設部非破壊検査の実際」 北海道工業試験所 佐々木 正治

4. 振動小委員会 (小委員長 芳村 仁)
下記の事業を行なった。

記

- 1) 「サンフェルナンド地震による橋梁の被害概要」を編集, 資料配布した。
2) 「万年橋振動試験報告」を検討の上, 資料配布した。

II 土質基礎研究委員会 (委員長 北郷 繁)

本委員会は, 昭和48年7月2日の委員会において, 従来の「くい基礎研究委員会」を発展的に解散し, 新たに土質および基礎分野における幅広い研究活動を行なうため設置したものである。委員会には現在次の二つの小委員会が設けられている。

- 1) 土質調査小委員会
道内の土質および地質調査報告書のリストならびに北海道の地盤図の作成, 地盤調査基準の確立などを目的とする調査研究を行なう。
- 2) 施工法小委員会
軟弱地盤処理工法, 土質安定工法, くいなどの基礎工法, トンネル施工法, 遮水工法, 特殊掘削工法など

地盤を対象とするすべての新工法に関する調査研究を行ない、これら新技術の有効適切な利用とその普及に努める。

III コンクリート研究委員会（委員長 横道 英雄）

本委員会は現在83名の委員により構成され、隔月ごとに開かれる幹事会（常任幹事、藤田嘉夫、松尾徹郎）をはじめ、常設の4つの小委員会および必要に応じて随時設置される臨時小委員会などが活発な活動を行っている。最近の主な活動状況は、次のとおりである。

見学会：札幌地区を中心に道内各地で年2回行っており、本年度は札幌地下鉄東西線、札幌新道、石狩大橋、江別バイパスなどを対象に行なわれた。

講演会：新技術・新工法・最近の話題などから会員の希望の大きいテーマについて年2回程度行っている。

本年度は来る12月～2月頃に「防水工」および「コンクリート橋施工に関する新技術」に関する2回の講演会が予定されている。

コンクリート橋小委員会（小委員長 新山 惇）：コンクリート橋に関する研究調査指導などの定常的な活動のほか、本年度は道内の主なコンクリート橋70橋を集録した「北海道におけるコンクリート橋」の発刊を予定している。

コンクリート舗装小委員会（小委員長 久保 宏）：道内におけるコンクリート舗装の調査研究をはじめ、特殊な舗装工法に関する技術指導などを行なっている。

コンクリート施工小委員会（小委員長 松尾 徹郎）：寒中コンクリートの調査研究などをはじめ、本年度は新たに促進強度試験による品質管理についての調査指導などが計画されている。

文献調査小委員会（小委員長 藤田 嘉夫）：本年度から準備会が発足し、内外の文献の調査整理、会員への頒布などの方法について現在検討中である。

土木学会示方書等への道内意見の反映：土木学会の「コンクリート標準示方書」および「プレストレストコンクリート設計施工指針」の改訂案について、各々臨時小委員会を設けて詳細な検討を行ない、それぞれ数度にわたって土木学会あてに意見書を提出し、道内各界の意見の反映を図った。